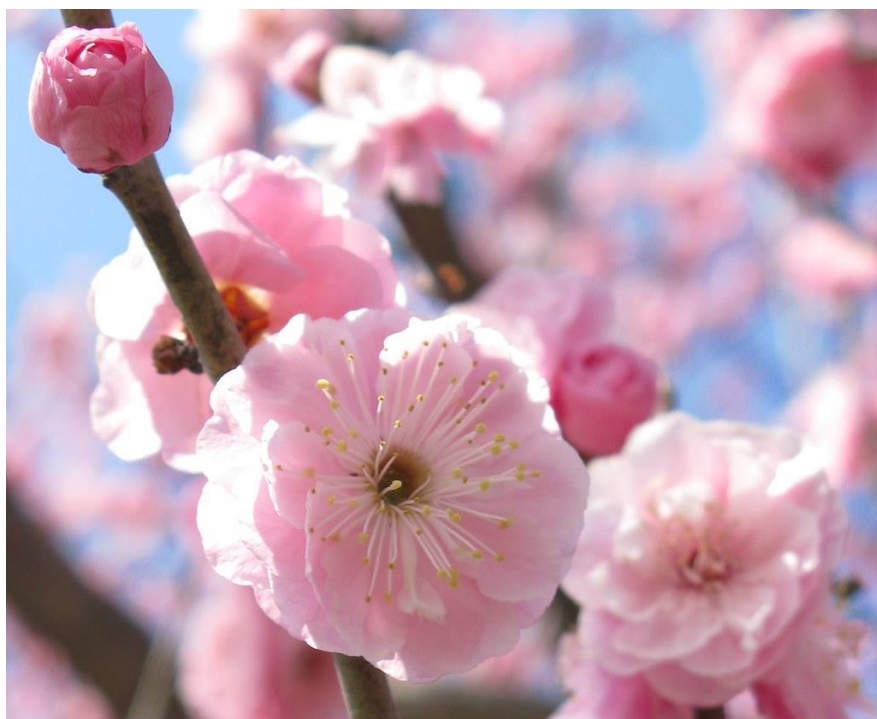


協会だよりー0202(2月号)

2・【トピックス】:

- 第243回月例会（講演・新年会）の開催
日時：2020年2月7日（金）15：30－17：30
講演会：如水会館2階オリオンルーム
講演演題
「2020年資源価格見通し」
「持続可能な資源循環への道」
講演者
新村直弘氏
原田幸明氏
新年会：18：00－20：00
如水会館 3階松風の間
- 2019年各分野の実績纏め
- 第40回JSCRA会の開催
日時：令和2年3月17日（水）
場所：筑波カントリークラブ



- 一. 協会よりのお知らせ
- 二. 「トピックス」
- 三. 「実施済事項」
- 四. 「予定事項」
- 五. 「その他・会員情報」
- 六. 「事務局より（2月度の予定）」
- 七. 「故郷上田について4 市村光志氏」

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

3. 【実施済事項】

- ① 協会だより0201（1月号）をHPに更新・各会員並びにOB各位に配信
- ② 【会員専用HPの更新】
 - 1月度の経費明細
 - 第243回月例会参加者&プログラムのPDF公開
 - 講演者2名のプロフィールPDF公開
- ③ 第40回JSCRA会の日程確認
- ④ 第5回運営委員会の実施（1月17日）

4. 【予定事項】

- ① 協会だより0203（3月号）の発行
- ② 会員専用HPの更新
- ③ 2019年実績データの集計と調査委員会の開催
- ⑤ 第243回月例会の実施

5. 【その他・会員情報】

- 太陽鋳工株式会社より「創業百年の軌跡・太陽鋳工70年史」が安田会長宛に送付されてきました。おめでとうございます。更なるご発展をお祈り致します。（事務局で保管します。）
- 会員数社から事務局宛に年賀状を頂きました。ありがとうございました。

6 . 事務局（2月度の予定） 出勤予定●：8日間

日	月	火	水	木	金	土
						2/01
2/02	2/03	2/04	2/05	2/06	2/07	2/08
		●			●	
2/09	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14	2/15
			●		●	
2/16	2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22
		●			●	
2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	2/29
			●		●	

（文責：専務理事）

【信州上田とはどんなところ？】

シリーズ第四回

2. 風土・歴史編

2-1 フォッサマグナと氷河の痕跡

北陸新幹線で東京から来られる事がありましたら上田駅に到着する前400～500mの右側を是非ご覧下さい。このような景色を見ることが出来ます。

これは1万年前最後の氷河期に氷が削り取った跡です。千曲川の氷河が上流からザーと移動し、上田を通り長野更に新潟・日本海へ動いていった痕跡です。

逆に言いますと削り取られなかった固い部分が残った訳です。その河岸段丘台地に真田昌幸（幸村の父）は上田城を築いたのです。

更に時代をもっと古くに戻しますと本州の中央部分は、2000万年前に一度海底に沈み、千数百万年した後、再度海底が隆起し今日の姿になっています。



これがフォッサマグナです。写真の黒い部分です。日本列島という大きな山脈を完全に分断するほどの溝は、世界どこを探しても見当たりません。上田はこの地図の中央上部にある浅間山の近くです。（矢印の所）

日本には断層が沢山ありますが、このフォッサマグナの左側にあるのが有名な糸魚川—静岡構造線です。この断層では時々大きな地震に見舞われます。数年前に牛伏断層地震が起き国宝松本城に亀裂が入ったのもこの断層付近にあるからです。有り難い事に上田付近には断層が一本もなく、有史以来大きな地震に見舞われたことはありません。油断は禁物ですが。



フォッサマグナで海底が隆起した後、火山噴火や洪水が頻繁に起こり、地形はどんどん変化してゆきましたが、その間上田は幾層に亘る土に覆われていた事を示す地形が残されています。

(数十万年かけて千曲川が削った二つの穴：岩鼻)
更にその土の上を流れていた千曲川が削り取った巨大な穴もあり、私どもは岩鼻と呼んでいます。その後川底が下がり現在の千曲川になったとされています。

2-2 多くのため池と少ない降水量

890 m/m。これは何の数字だと思われますか？上田市の1981~2010年平均年間降水量です。一年間です。最近の台風・大水等のニュースを聞いていますと24時間で400 m/m等の数値が頻繁に出てきます。私どもにはそれがどんなものなのか肌感に感ずるのは難しいものがあります。上田にももちろん大雨が降ることがあり、溝から溢れて道を雨水が覆うこともあります。限定的です。

その少ない降水量は現代だけでなく昔からそうであった事はため池の数が多いことでも分かります。農業には水は必須ですので。上田の米所と言われている塩田地区には大小合わせて200カ所ほどのため池があります。全国的にもこれだけのため池が集まっている所は珍しく、2020年秋に「全国ため池フォーラム」が上田で開催されます。塩田にある舌喰池（したくいけ）の写真です。



1



このため池には若い娘さんを人柱にして、ため池に埋め、雨乞いをしたと言う悲しい逸話が残っています。農民の苦労が偲ばれます。

更にこの地区に残っている伝統行事があります。岳の幟（たけののぼり）も雨乞いの祭りで、500年続く国指定選択重要文化財です。



現在はこの特徴を生かして太陽光発電が盛んに行われています。NPOである“相乗りくん”と言う太陽光発電チームが2018年環境大臣賞を頂きました。上田だけでなく全国から基金が寄せられ活発に活動しています。小生もこのチームの一員で写真の左から二番目です。



（相乗りくんの一号が設置されたお宅の前で） 文責（市村） 以上